

FACT BOOK

2024年5月更新

サッポロホールディングス株式会社

資料編

1 サッポログループの概況

- サッポログループ 会社概要
- サッポログループ 事業別主要関係会社と主な商品
- サッポログループ 沿革

2 中期経営計画

- 基本方針
- 事業戦略
- 財務戦略
- サステナビリティ戦略
- 経営基盤強化

3 事業概況

- 酒類事業
- 食品飲料事業
- 不動産事業

データ編

4 財務データ

- 損益計算書/財政状態計算書
- セグメント情報
- キャッシュフロー情報/1株あたり情報/各種指標

オンライングラフURL

<https://www.sapporoholdings.jp/ir/financial/graph/>

5 非財務データ

サッポログループの詳しい情報については、当社WEBサイトをご覧ください。

- IRサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/ir/>

- IRライブラリー（決算短信・決算説明会資料・有価証券報告書・統合報告書）

<https://www.sapporoholdings.jp/ir/library/>

- サステナビリティサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/>

- サステナビリティブック

https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/sustainability_book/

～資料編～

サッポログループ 会社概要

経営理念

潤いを創造し 豊かさに貢献する

経営の基本方針

サッポログループは、ステークホルダーの信頼を高める誠実な企業活動を実践し、持続的な企業価値の向上を目指します

サッポログループは1876年の北海道開拓使麦酒醸造所設立によるビール製造開始以来、原料にこだわったモノづくりへの真摯な取り組みを続け、お客様にご満足いただける商品・サービスの提供に努めています。

ビール事業をはじめとして、総合酒類、食品・飲料、外食、不動産へとすそ野を広げ、ご提供する商品・サービスを通じたお客様との「対話」をもとに、イノベーションや品質の向上を追求してきました。これが、私たちの大事な「ブランド」資産だと考えています。

これからも変化への対応と新たな挑戦により、国内外でこの「ブランド」をさらに磨き、「個性かがやくブランドカンパニー」としての確かな成長を目指していきます。

また、世界全体で向き合う地球環境や社会における各課題に取り組むサステナビリティ経営の推進は、企業として当然果たすべき役割と認識しています。当社の経営理念「潤いを創造し 豊かさに貢献する」の実現に資する「人々と地域社会のWell-beingへの貢献」を行い、経済価値・社会価値の創出を図っていきます。

本社

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号

設立

1949（昭和24）年9月1日

創業

1876（明治9）年

代表者

代表取締役社長：尾賀 真城



Masaki Ohsaka

事業概要

持株会社（グループの経営戦略の策定、管理）

資本金

53,887百万円

お問い合わせ先

サッポロホールディングス株式会社 経理部 IR室
Tel. 03-6859-2304 Fax.03-5423-2061

サッポログループ 会社概要

証券コード
2501

発行済株式数
78,794,298株（2023年12月31日現在）

格付情報（2023年12月31日現在）
株式会社日本格付研究所（JCR）
A-

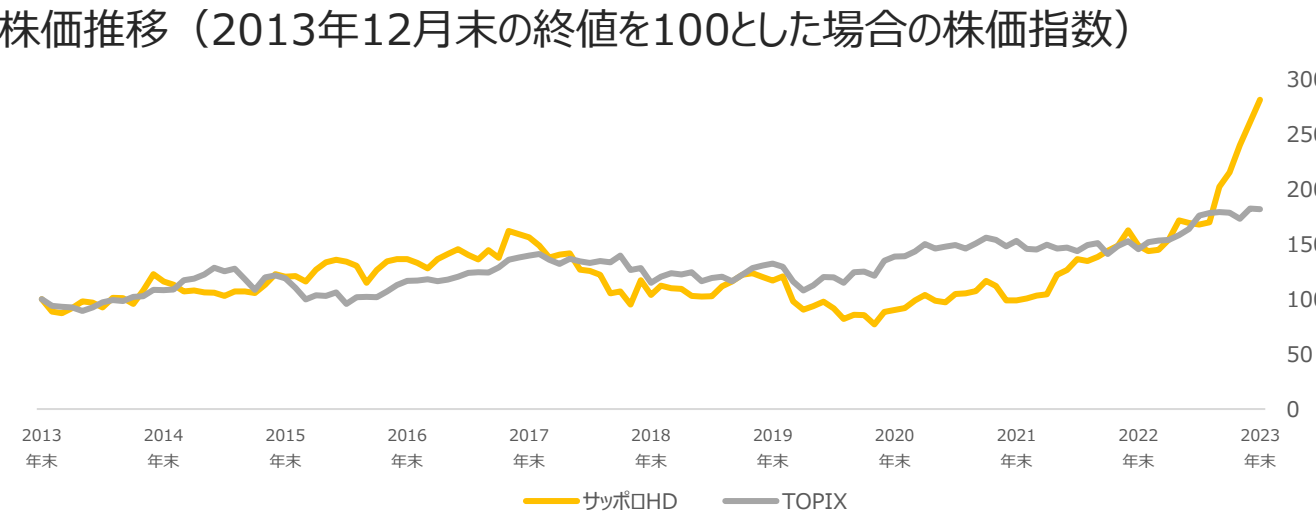
株主名簿管理人
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
（フリーダイヤル） 0120-288-324

単元株式数 100株

大株主（上位10名及びその状況） 持株比率は自己株式を控除して計算しています。

2023年12月31日現在

株主名	持株数（千株）	持株比率（％）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	10,677	13.68
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505018	5,600	7.18
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	2,964	3.8
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN（CASHPB）	2,809	3.6
株式会社日本カストディ銀行 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,442	3.13
3D OPPORTUNITY MASTER FUND	2,400	3.08
日本生命保険相互会社	2,237	2.87
明治安田生命保険相互会社	2,236	2.87
農林中央金庫	1,875	2.4
丸紅株式会社	1,649	2.11



サッポログループ 会社概要

酒類、食品飲料、不動産の3つの事業を展開

◆ 酒類事業

国内では、黒ラベル・エビスなどビールを中心に酒類事業を展開。
海外では、北米を中心に、SAPPORO PREMIUM BEERの販売を推進。
外食では、「銀座ライオン」「エビスバー」などで、最高品質の生ビールと、居心地の良い空間を提供。

◆ 食品飲料事業

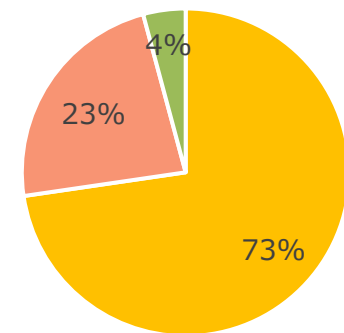
国内では、レモンを中心に飲料、スープなど各種商品の製造・販売を実施。
海外では、茶系飲料シェアNo.1のシンガポールを拠点として、世界約60カ国以上へPOKKAブランドを展開。

◆ 不動産事業

サッポログループとゆかりの深い恵比寿・札幌を中心に不動産の管理・運営、開発事業などを展開。
物件価値向上とまちづくりを推進。

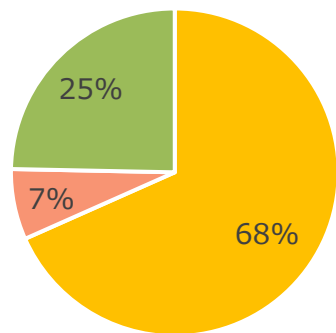
(億円)	2023実績				
	連結	酒類	食品飲料	不動産	その他
売上収益	5,186	3,769	1,199	217	1
事業利益	156	160	16	58	-78
事業利益率	3.0%	4.2%	1.4%	26.7%	-
EBITDA	360	266	44	113	-63

売上収益構成比



■ 酒類 ■ 食品飲料 ■ 不動産

事業利益構成比



■ 酒類 ■ 食品飲料 ■ 不動産

サッポログループ 事業別主要関係会社と主な商品

2023年12月末時点

日本 北米 東南アジア

サッポロホールディングス株式会社

酒類

国内酒類

海外酒類

外食

食品飲料

国内食品飲料

海外飲料

不動産

サッポロビール(株)

カナダ

SLEEMAN BREWERIES LTD.

アメリカ

SAPPORO U.S.A., INC.

Sapporo Stone Brewing Co.

ベトナム

SAPPORO VIETNAM LTD.

(株)サッポロライオン

ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)

シンガポール

POKKA PTE.LTD.

マレーシア

POKKA (MALAYSIA) SDN.BHD.

サッポロ不動産開発(株)

サッポロビール(株)



SLEEMAN BREWERIES LTD.



Sapporo Stone Brewing Co.



(株)サッポロライオン



銀座ライオン



YEBISU BAR

外食

酒類事業

国内酒類

海外酒類

ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)



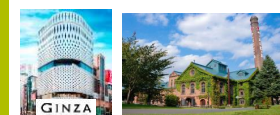
POKKA PTE.LTD.



サッポロ不動産開発(株)



YEBISU GARDEN PLACE



GINZA PLACE

不動産

食品飲料事業

国内食品飲料

海外飲料

サッポログループ 沿革



年	事業	主な出来事
1876	酒類	【日本】北海道・札幌にて「開拓使麦酒醸造所」として創業（サッポロビールのルーツ）
1877	酒類	【日本】冷製「札幌ビール」発売
1887	酒類	【日本】東京・銀座にて「日本麦酒醸造会社」創業（エビスビールのルーツ）
1890	酒類	【日本】「恵比寿ビール」発売
1899	酒類	【日本】日本初のビヤホール「恵比寿ビール BEER HALL」東京・銀座に誕生
1957	食品飲料	【日本】「ポッカレモン」誕生
1964	酒類	【アメリカ】米国向けにビールの輸出を開始
1977	酒類	【日本】「サッポロびん生」発売（後の「サッポロ生ビール黒ラベル」）
1977	食品飲料	【シンガポール】シンガポール進出
1984	酒類	【アメリカ】サッポロUSA社設立
1993	不動産	【日本】札幌工場跡地に＜サッポロファクトリー＞開業
1994	不動産	【日本】恵比寿工場跡地に＜恵比寿ガーデンプレイス＞開業
2003	その他	純粋持株会社体制へ（サッポロホールディングス株式会社）
2006	酒類	【カナダ】SLEEMAN社子会社化
2011	酒類	【ベトナム】ビール工場完成
2011	食品飲料	【日本】ポッカサッポロフード&ビバレッジ事業開始
2014	食品飲料	【マレーシア】ポッカマレーシア工場竣工
2016	不動産	【日本】GINZA PLACE開業
2019	その他	「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同表明
2019	その他	サッポログループ サステナビリティ方針策定
2020	その他	監査等委員会設置会社に移行
2021	その他	「責任ある飲酒の推進」としてグローバルスローガン「Promote Responsible Drinking」策定
2022	酒類	【アメリカ】Stone社子会社化



基本方針：Beyond150 ～事業構造を転換し新たな成長へ～

1876年の創業以来、様々なイノベーションを発揮しお客様に潤いと豊かさをもたらす商品やサービスをお届けしてきた当社は、2026年に創業150周年を迎えます。150年を越えて独自の存在価値を発揮し続けるために、2023年～2026年までの4か年の新たな経営計画を策定しました。本計画のポイントは、事業ポートフォリオの見直しと、各事業のポジショニングに沿ったグループマネジメントを実現し、資本効率を高め企業価値を向上させていくことです。ステークホルダーの皆さまの期待に確実に応える4年間とします。当社グループが今後も独自の存在価値を発揮して成長を続けていくために、本計画では「事業戦略」「財務戦略」「サステナビリティ」を3つの戦略の柱に据え、事業構造の転換を完遂し、持続的成長に向けた基盤を構築していきます。

<基本方針>

Beyond150 ～事業構造を転換し新たな成長へ～

経済価値
×
社会価値

■事業戦略

- ・事業ポートフォリオの整理
- ・海外事業の成長
- ・コア事業における収益力強化

■財務戦略

- ・持続的成長と資本効率を重視
- ・資本コストを上回るリターン
- ・キャッシュ創出力の強化
- ・成長を支えるキャッシュアロケーション

■サステナビリティ

- ・脱炭素社会の実現
- ・地域との共栄
- ・多様な人財の活躍

【 経営基盤 （人財・DX・R&D） 】

サッポログループが 提供する価値

全ての事業が提供する
時間と空間で、
人々と地域社会の
Well-beingに貢献

経営理念

潤いを創造し
豊かさに貢献する

財務目標

- ・ROE：8%
- ・EBITDA年平均成長率：10%程度
- ・海外売上高年平均成長率：10%程度

主な非財務目標

- ・温室効果ガス排出削減（いずれも2022年比）
スコープ1、2 2030年42%削減
（2026年21%削減）
スコープ3 2030年25%削減
（2026年12.5%削減）

SBTの認定を取得※1

- ・女性取締役比率、女性管理職比率：12%以上

※1 SBT パリ協定が求める水準と整合した、
企業が設定する温室効果ガス排出削減目標のこと

2023年～2026年

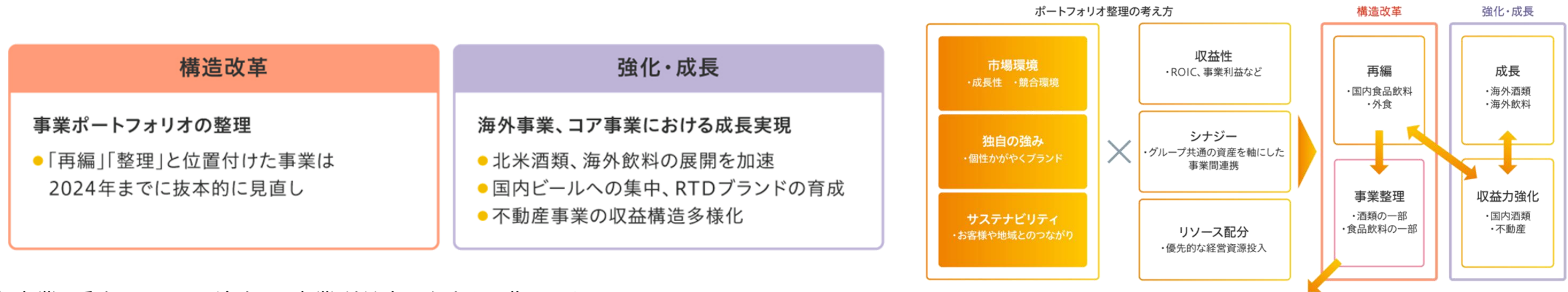
2026年
創業150周年

中期経営計画詳細はHP掲載のパワーポイント資料をご覧ください
[中期経営計画パワーポイント資料](#)

事業戦略

事業ポートフォリオを整理し、「構造改革」と「強化・成長」の両輪で収益を拡大します。

6つの視点から各事業を多角的に分析・評価し、構造改革が必要な「再編」と「事業整理」、コア事業として優先的に投資すべき「成長」と「収益力強化」の4つのカテゴリに整理しました。



各事業、重点アクションに注力し、事業利益率の向上を目指します。

国内酒類 **強化・成長** 事業利益率 3.5% (22年実績) ⇒ 5.7% (26年目標)

酒税一本化を見据え、ビール・RTDを強化

海外酒類 **強化・成長** 事業利益率 ▲0.4% (22年実績) ⇒ 6.2% (26年目標)

成長ドライバーとなる米国において、Stone社とのシナジー早期創出、SAPPORO PREMIUM BEER (SPB) を中心とした更なる成長を目指す

外食 **構造改革** 事業利益率 ▲3.3% (22年実績) ⇒ 5.0% (26年目標)

投資効率の高い店舗の出店と不採算店舗の閉鎖
ブランド発信拠点としての国内酒類事業との連携強化

国内食品飲料 **構造改革** 事業利益率 0.9% (22年実績) ⇒ 3.8% (26年目標)

構造改革の実施による収益基盤の再構築
レモン事業へのリソース集中投下

海外飲料 **強化・成長** 事業利益率 3.6% (22年実績) ⇒ 5.0% (26年目標)

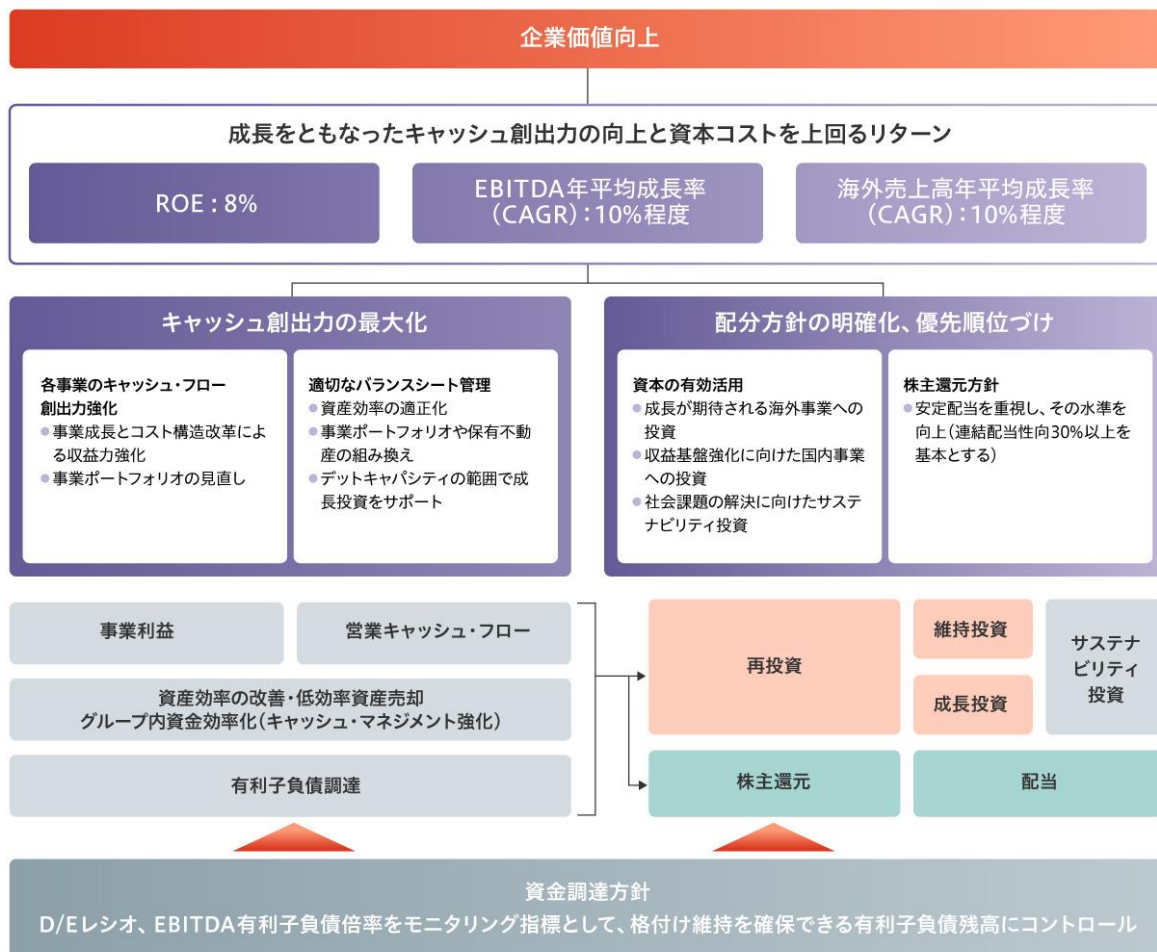
シンガポールを起点にマレーシア、中東など成長余地のある国での売上拡大

不動産 **強化・成長** ROA 4.9% (22年実績) ⇒ 5.7% (26年目標)
(EBITDAベース)

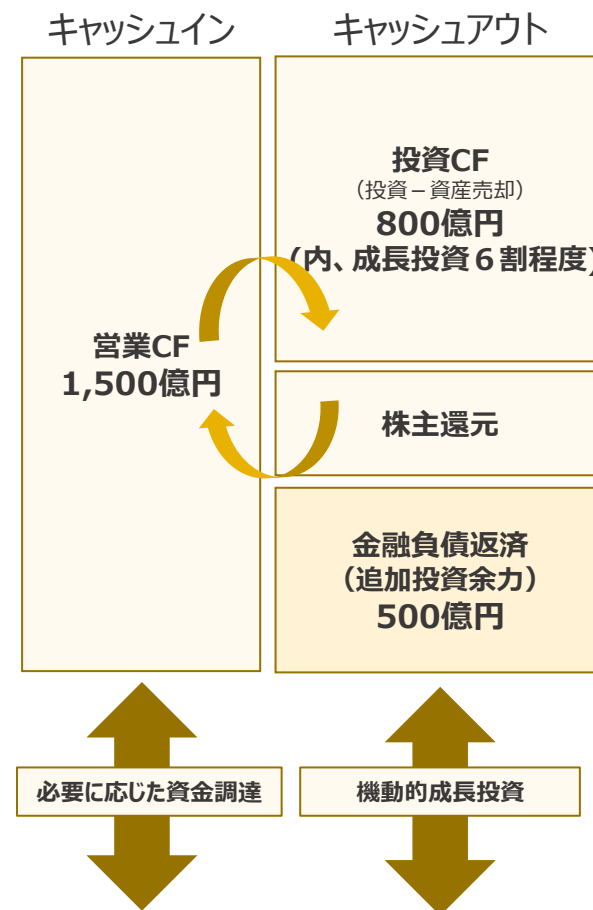
保有物件の価値向上とまちづくり

財務戦略

持続的成長と資本効率を重視した財務戦略を推進し、企業価値向上を確かなものにします。
ROE8%を目標に、キャッシュ創出力の向上と資本コストを上回るリターンを追求します。



4年間のキャッシュアロケーション (2023年～2026年)

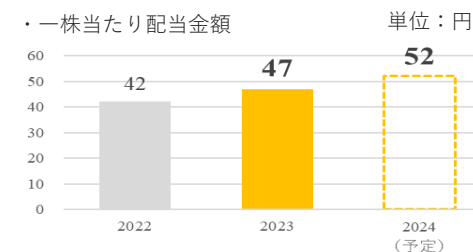


政策保有株式縮減

- ◆2024年までの目標：対資本の20%未満
- ◆2026年までの目標：対資本の10%未満

配当

2023年は利益成長に伴い増配を決定
2024年も2期連続の増配を予定



財務柔軟性の確保

- ・金融負債を圧縮して財務安全性を強化
- ・有益な成長投資機会には追加投資余力を活用して柔軟に対応

格付け維持を確保できる
範囲でレバレッジ活用

サステナビリティ戦略

「事業による社会・環境への影響度」と「社会・環境による自社財務への影響度」をリスク・機会の側面から評価し、9つの重点課題を特定しました。なかでも、「脱炭素社会の実現」「地域との共栄」「多様な人財の活躍」を最注力課題に位置づけました。進捗をモニタリングしながら取り組みを推進します。

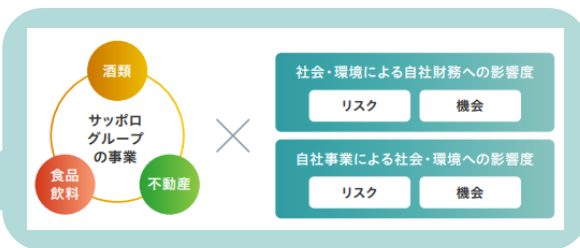
重点課題の特定プロセス

STEP1:課題のリストアップ

STEP2:課題の優先順位づけ

STEP3:社外有識者からのアドバイス

STEP4:重点課題の承認



重点課題

全ての事業が提供する時間と空間で、人々と地域社会のWell-beingに貢献



経営基盤強化

3つの基本戦略を着実に実行し、経営目標を達成していくために、「人財」「DX」「R&D」といった経営基盤強化を図ります。

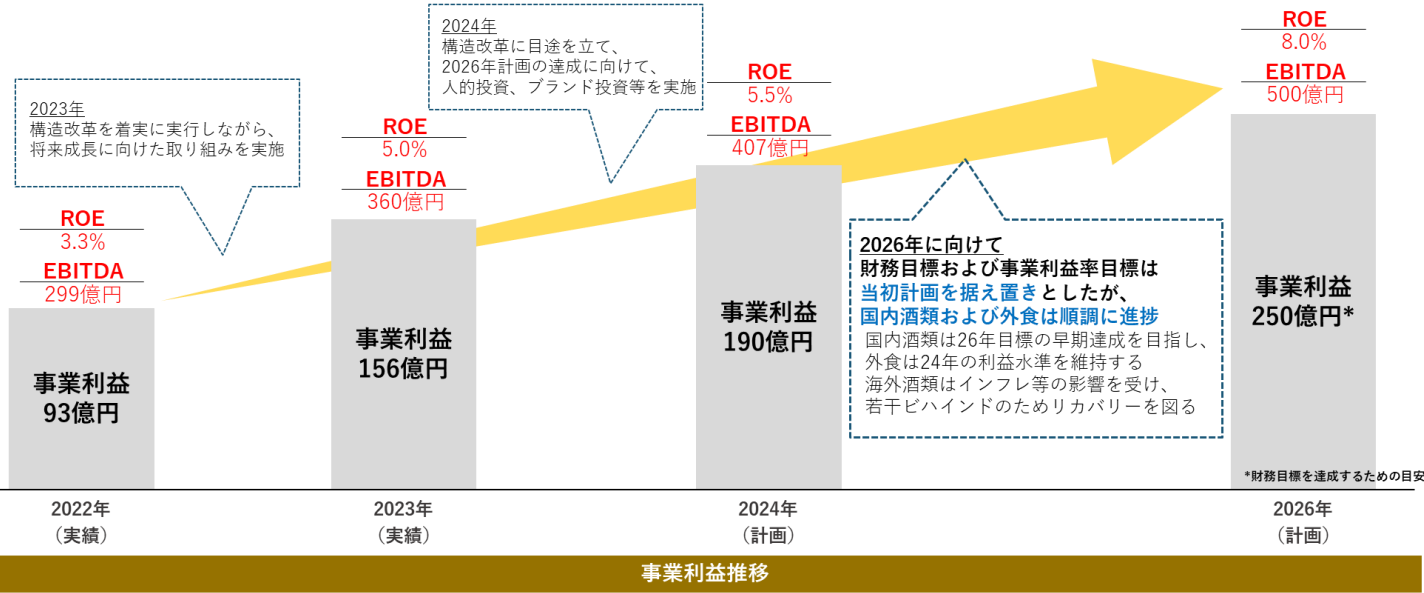
重点施策	具策策(～2026年)	対象:ホールディングス社および主要グループ企業
人財	① スピードある成長に向けた積極投資 ② 多様性の促進 ③ エンゲージメント向上と健康促進 ④ 経営人財育成	① グローバル人財育成体系に基づいた育成・確保への積極投資と戦略的配置 ② D&I推進のための環境を整備し、女性取締役・管理職比率12%以上を達成 ③ 支援型マネジメント力の強化とメンタルタフネス支援でワークエンゲージメントを向上 ④ グループ全体のサクセッションプランに基づいた成長支援と配置
DX	① DX・IT戦略の推進体制構築 ② 組織・人財マネジメント整備 ③ 育成人財の活躍、環境整備・運営	① DXとITの組織・機能融合による多面的な業務シナジーの創出 ② 計画的な育成・採用・活用によるグループ全体の人財レベル向上 ③ ビジネスプロセス変革、新規事業分野の開拓を創出する新たな環境整備

目指す姿		重点施策	
R&D	●当社の強みを世の中が求める価値に転換して継続的に提供	酒類	持続可能な原料調達のための技術開発 …… 気候変動に対応する大麦・ホップ お酒のおいしさ・機能の追究 …………… 「酔い・健康」の科学的解明と事業活用 新しい飲用体験の追求 …………… デジタル活用による共感醸成、エンタメ提供など
	●新たなカテゴリや市場の創出	食品飲料	レモンの健康機能、品質向上研究 …………… レモン果汁の用途拡大 未利用資源からの新価値創出 …………… レモン丸ごとの素材活用



中期経営計画の進捗

2026年のROE8%達成に向け、順調なスタート
事業構造を転換し、新たな成長を実現すべく、2024年は構造改革に目途を立て、土台を固める年にします



財務目標・事業利益率目標に対して順調に進捗
構造改革を進めている外食、食品飲料と
収益力強化を進めている国内酒類の事業利益率が2022年に比べ大幅に改善

【財務目標】				
	2022年実績	2023年実績	2024年計画	2026年目標
ROE	3.3%	5.0%	5.5%	8.0%
(目安) 事業利益 ※	93億円	156億円	190億円	250億円
EBITDA 年平均成長 (CAGR)		20.6%	16.7%	10%程度
(目安) EBITDA ※	299億円	360億円	407億円	500億円
海外売上収益 年平均成長 (CAGR)		17.0%	10.3%	10%程度
(目安) 海外売上収益 ※	1,022億円	1,196億円	1,244億円	1,400億円

【事業利益率目標】				
	2022年実績	2023年実績	2024年計画	2026年目標
国内酒類	3.5%	5.3%	5.7%	5.7%
海外酒類	▲0.4%	▲0.3%	1.1%	6.2%
外食	▲3.3%	10.5%	8.8%	5.0% (2024年の利益水準維持を目指す)
国内食品飲料	0.9%	2.3%	2.4%	3.8%
海外飲料	3.6%	▲2.2%	4.6%	5.0%
不動産 ※	4.9%	4.7%	4.7%	5.7%

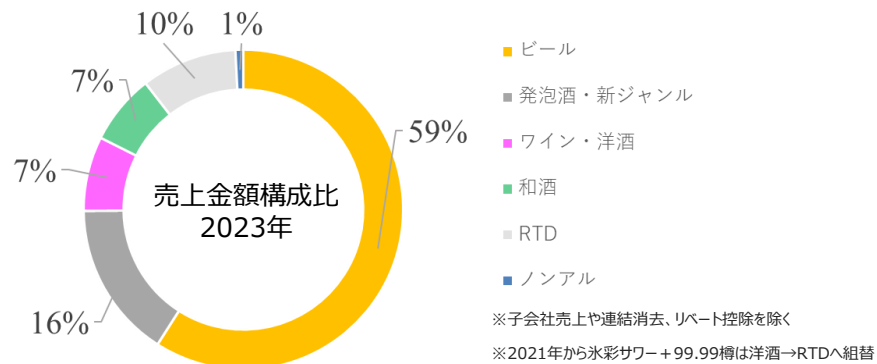
サッポロビール株式会社

基本情報

1876年の創業以来モノ造りにこだわり、その中で「サッポロ生ビール黒ラベル」「エビスビール」という2つのブランドをお客様と共に育てまいりました。一方、日本で唯一のビール博物館である「サッポロビール博物館」、恵比寿の地名の由来である「エビスビール」のリアル体験施設「YEBISU BREWERY TOKYO」、ならびに日本のビール文化を健全に発展させる目的で2012年から開始した「日本ビール検定」などを通じ、世界に誇る日本のビール文化の醸成にも貢献しています。全ての商品やサービスにより磨きをかけ、お酒と人との未来を創る酒類ブランドカンパニーを目指していきます。

事業内容

ビール・発泡酒・新ジャンル・RTD・ワイン・焼酎などの製造販売、洋酒の販売他



主要ブランド



沿革

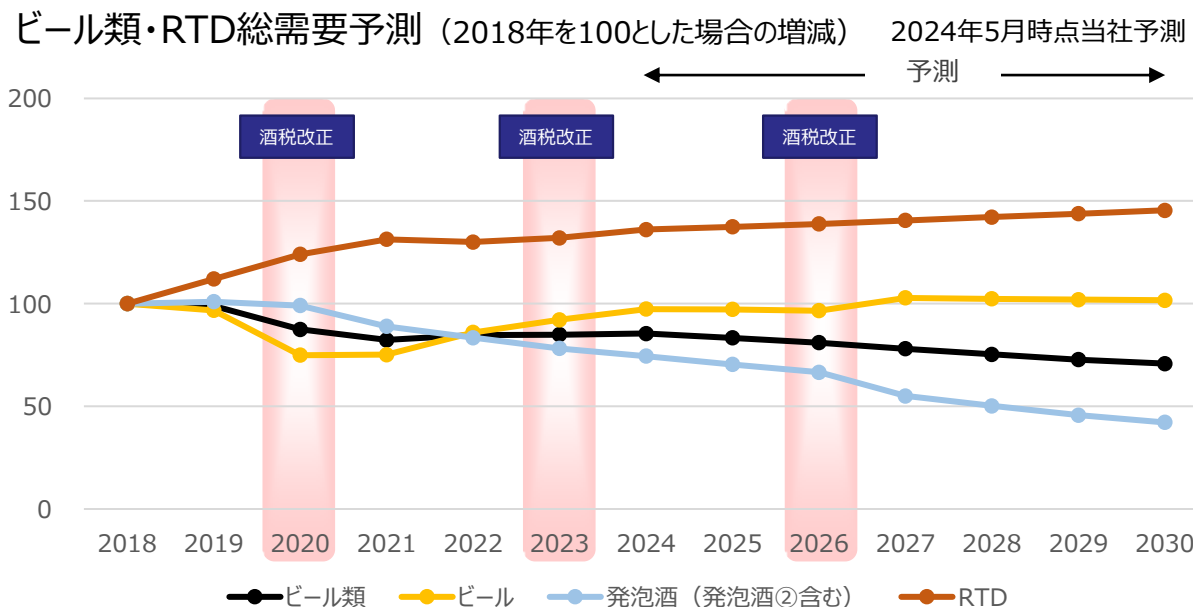
- 1876年9月 開拓使麦酒醸造所設立
- 1949年9月 日本麦酒株式会社発足
(1964年にサッポロビール株式会社と社名変更)
- 2003年7月 サッポログループの純粋持株会社制移行により、
酒類事業を担う新・サッポロビール(株) を設立

生産拠点・見学施設

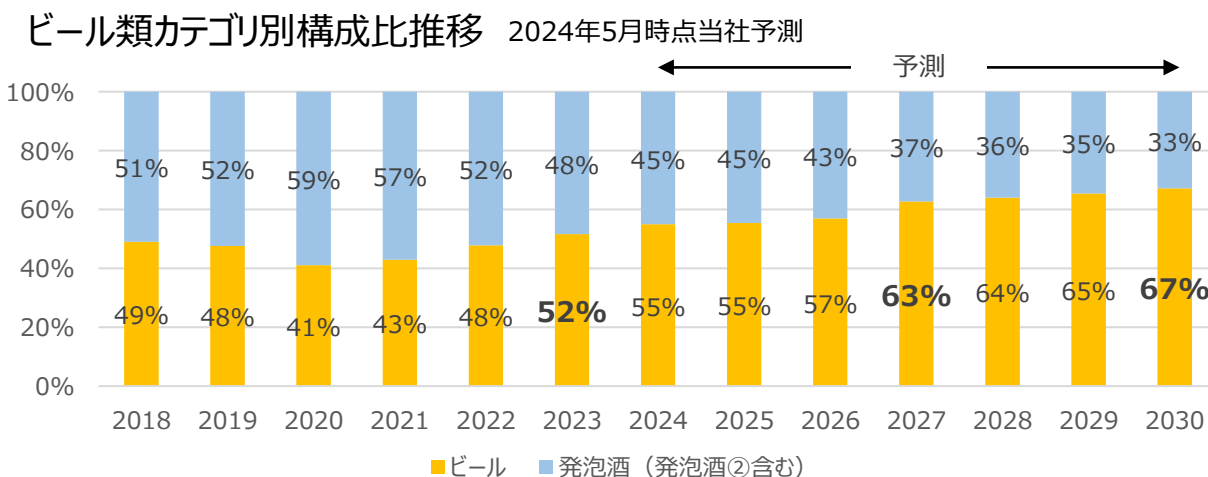
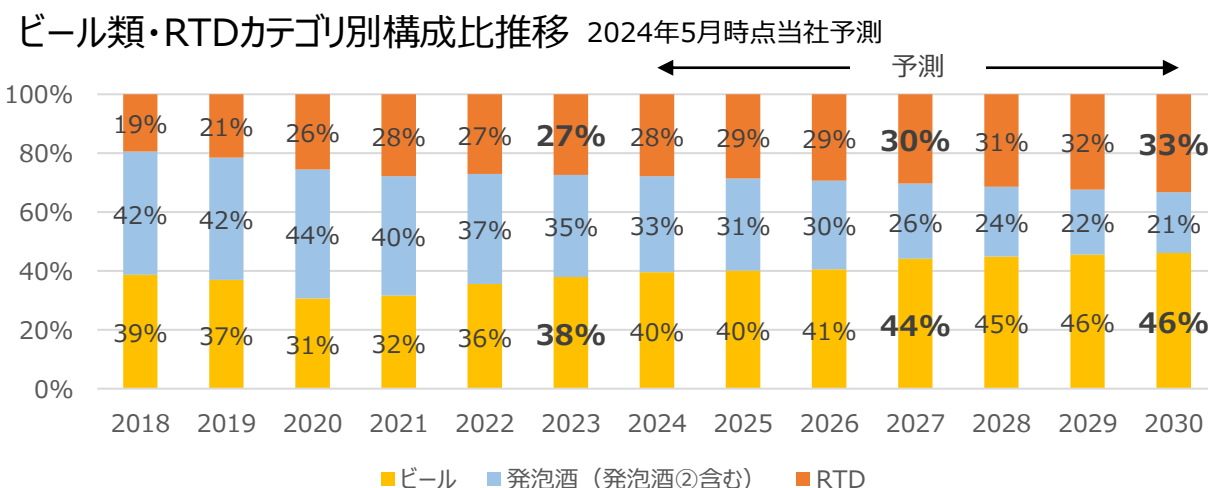
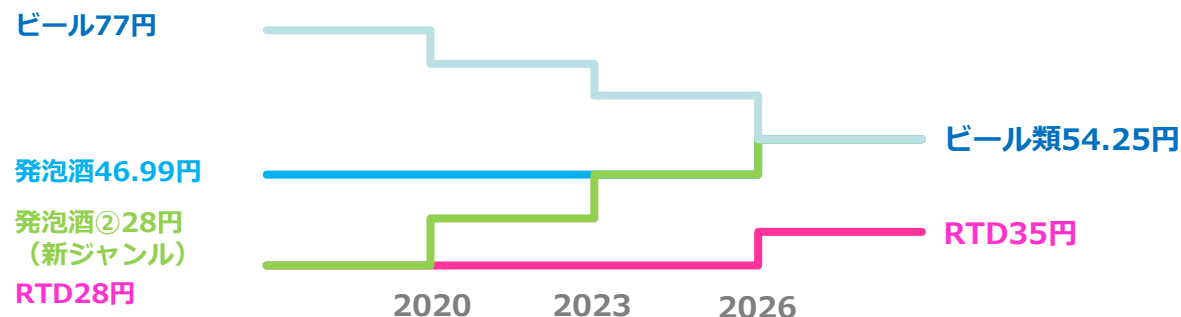
ビール工場		見学施設	
北海道工場	北海道恵庭市	サッポロビール博物館	北海道札幌市
千葉工場	千葉県船橋市	YEBISU BREWERY TOKYO	東京都渋谷区
静岡工場 ※1	静岡県焼津市	ワイナリー	
那須工場 ※2	栃木県那須郡	グランボレル勝沼ワイナリー	山梨県甲府市
九州日田工場	大分県日田市	岡山ワイナリー	岡山県赤磐市
RTD工場		※1 RTD製造含む	
仙台工場 ※3	宮城県名取市	※2 2025年3月末にて稼働停止予定	
		※3 2023年10月～仙台ビール工場をRTD工場として再編	

国内酒類_市場動向

ビール類の市場は減少傾向が続く見通しだが、**狭義のビールは横ばい、RTDは増加**が見込まれる。
ビール類における**狭義のビール構成比は増加**していく見通し。



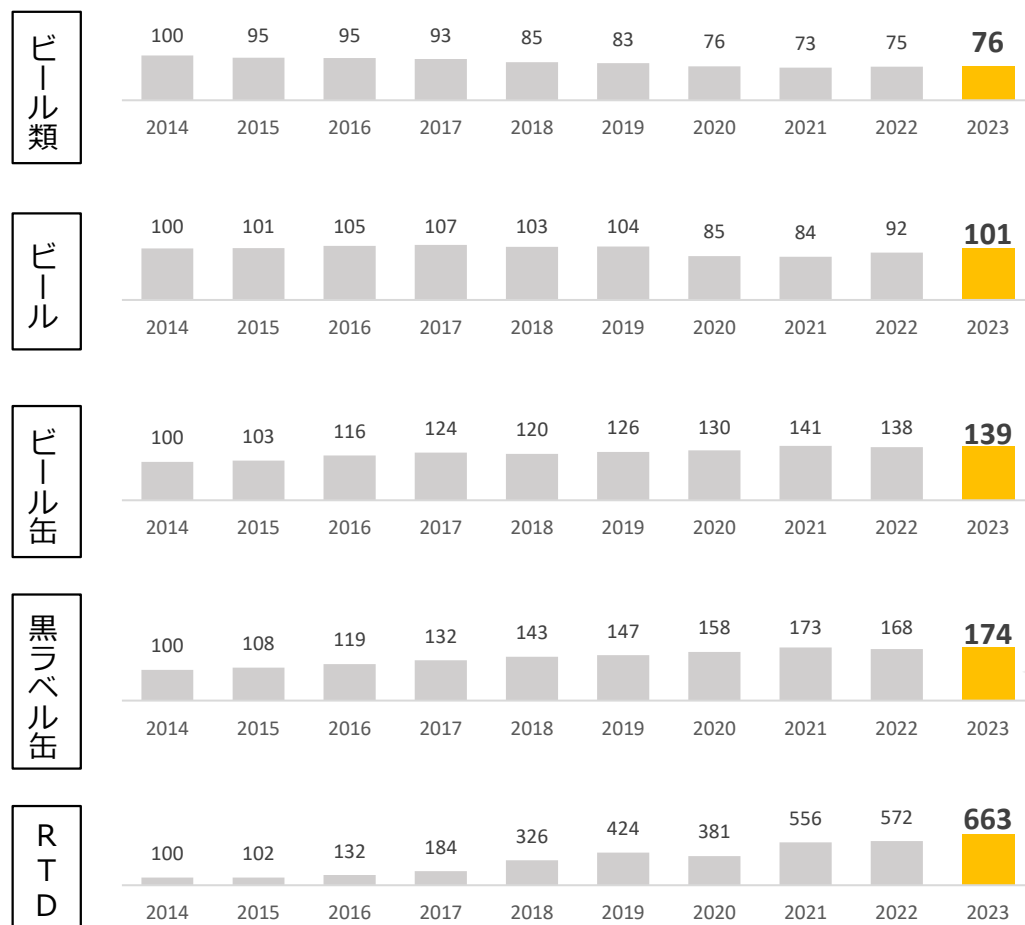
酒税改正による酒税額の推移（350ml当たり）



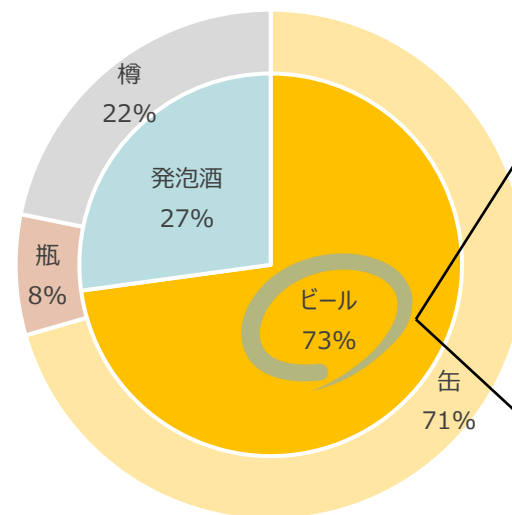
国内酒類_当社実績

市場と比較しビール構成比が高く、ビールに強みがある。
ビール缶は10年間で+39%、黒ラベル缶は+74%と注力するビールが着実に成長している。

販売数量推移（2014年を100とした場合の増減）



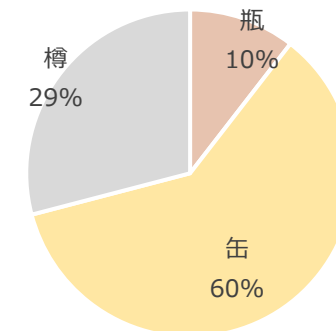
ビール類 販売数量ジャンル別・容器別構成比（2023年実績）



ビール 販売数量ブランド別構成比（2023年実績）

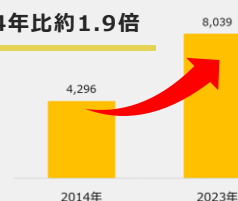


ビール 販売数量容器別構成比（2023年実績）



黒ラベルにおける中長期的な取り組み成果
個性を磨くマーケティング、顧客接点強化により
黒ラベルの購入者数拡大に成功

2014年比約1.9倍



出典：インテージSCI
黒ラベル購入者数
各年1-12月累計

カナダ：SLEEMAN BREWERIES LTD.

アメリカ：SAPPORO U.S.A.,INC./Sapporo Stone Brewing Co.

ベトナム：SAPPORO VIETNAM LTD.

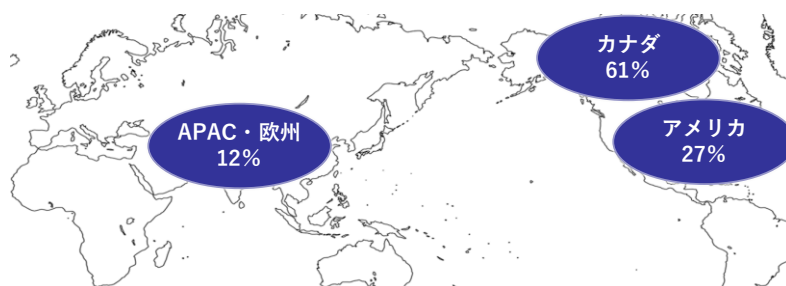
基本情報

1964年のアメリカ向けのビールの輸出からスタートし、
今ではアメリカ、カナダ、ベトナムを中心に約45か国で展開しております。
売上収益は10年間で約2倍に拡大し、当社グループの成長ドライバーに位置付けられています。

事業内容

ビールの製造、輸入、販売

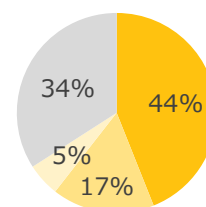
(2023年実績数量ベース/すべて大瓶換算)



サッポロブランド 海外販売数量推移 対前年 **108%**



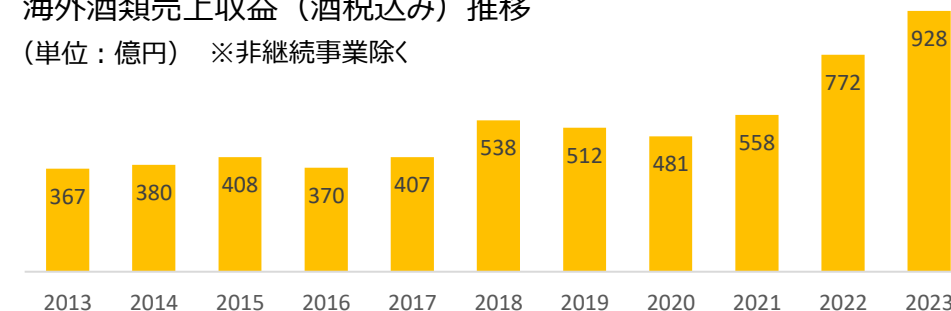
サッポロブランド 海外販売エリア構成比



■ アメリカ ■ カナダ ■ ベトナム ■ 輸出

海外酒類売上収益（酒税込み）推移

(単位：億円) ※非継続事業除く



海外酒類 販売数量ブランド構成比

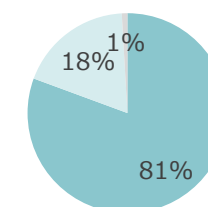


■ 海外ブランド ■ サッポロブランド

海外ブランド 販売数量推移 対前年 **109%**



海外ブランド ブランド構成比



■ Sleeman ■ Stone ■ その他

カナダ : SLEEMAN BREWERIES LTD.

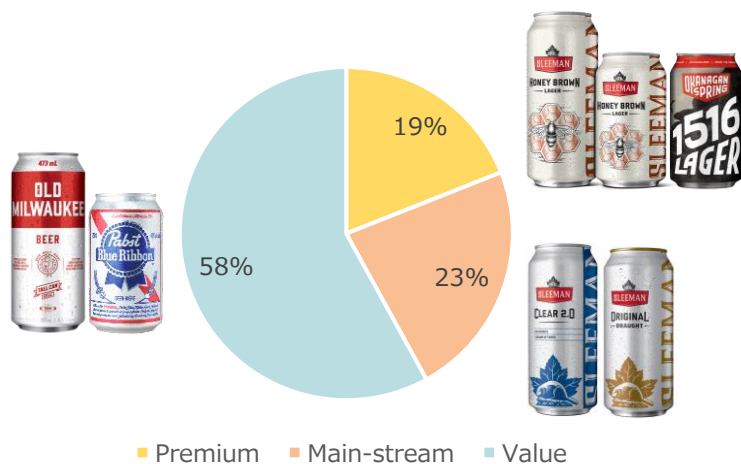
概要

- ・カナダ第3位ビールメーカー
- ・子会社になって以来、売上金額は約2.5倍に

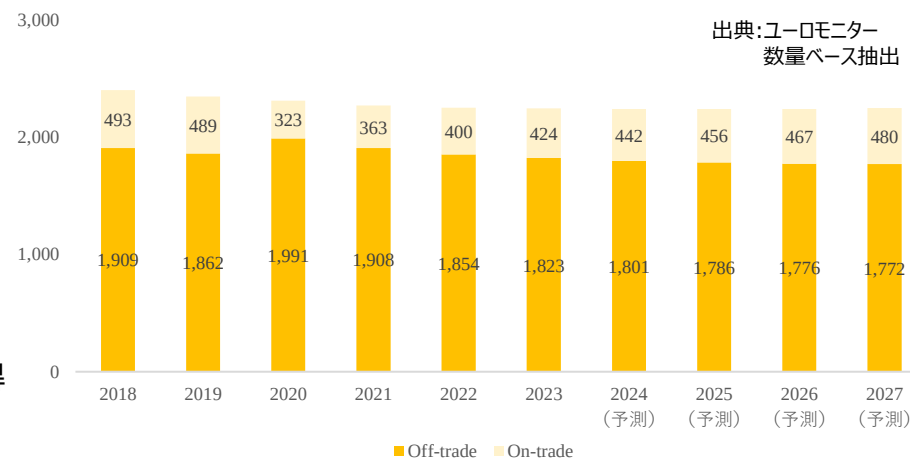
沿革

1834年 創業
1988年 SLEEMAN BREWERIES LTD. 設立
2006年 サッポログループがSLEEMANの全持分を取得

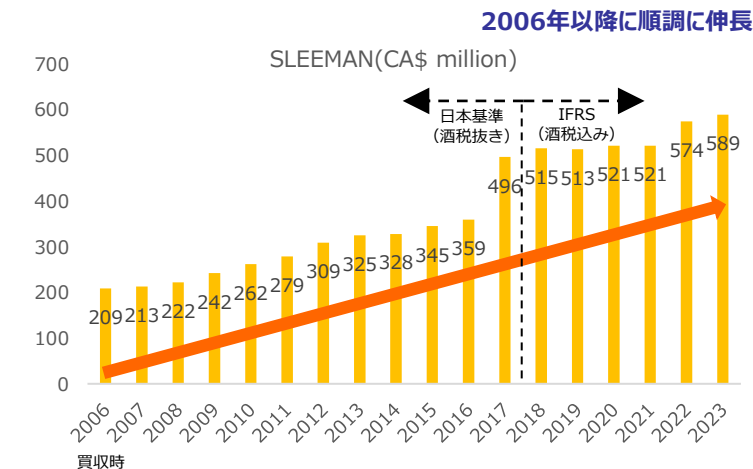
主要ブランド



カナダ国内 市場規模 単位：千KL

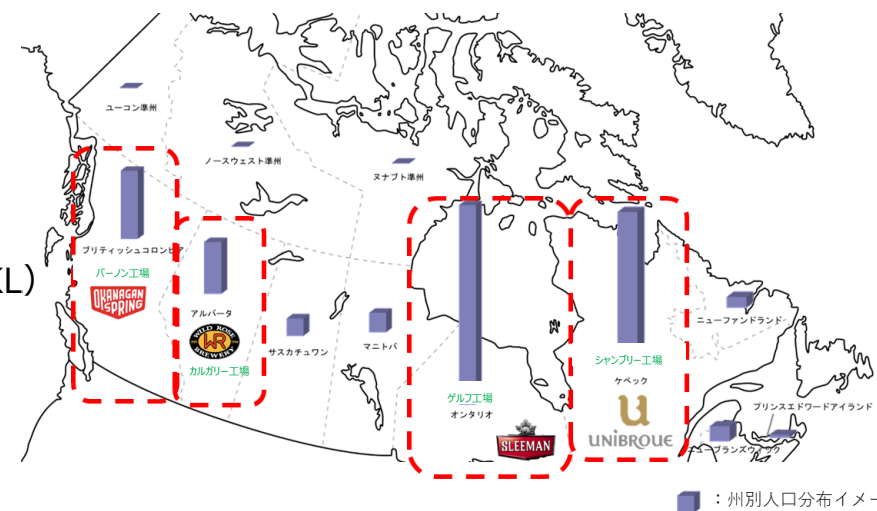


スリーマン 現地通貨建て売上金額推移（連結消去前）



生産拠点

生産拠点 4工場
(ゲルフ、バーノン、シャンブリー、カルガリー)
生産能力 23万KL
(ゲルフ12.7万KL・バーノン7.5万KL
・シャンブリー2.3万KL・カルガリー0.3万KL)





アメリカ：SAPPORO U.S.A.,INC./Sapporo Stone Brewing Co.

概要

- ・1964年から、米国向けにビールの輸出を開始
- ・以降、販路を拡大させ、成長が継続
- ・2022年に買収したStoneが保有する2工場で、伸長するサッポロブランドを製造し、成長を加速させる。

沿革

- 1964年 米国向けの輸出開始
- 1984年 SAPPORO U.S.A.,INC.設立
- 2016年 Stone Brewing Co.,LLC設立（創業は1996年）
- 2022年 サッポログループがStoneの全持分を取得
- 2023年 Sapporo Stone Brewing Co.設立

主要ブランド



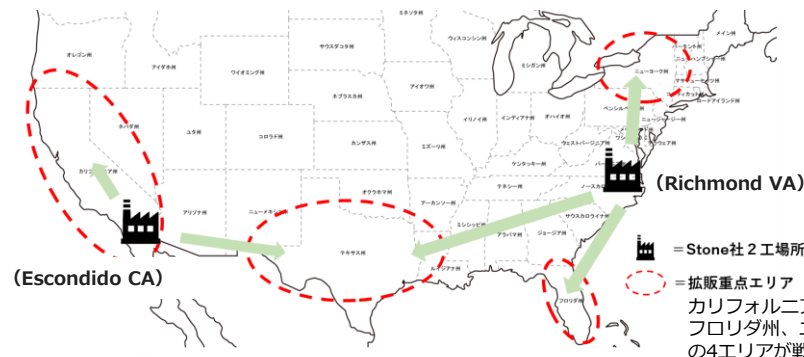
米国国内 ビールの市場規模 単位：千KL



生産拠点

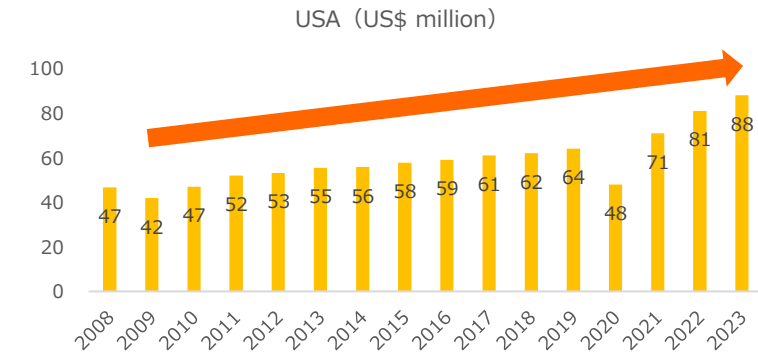
Escondido CA, Richmond VA

- ・従来はカナダ・ベトナムから輸入であったが、2024年～はStone社が東西に保有する工場での製造開始



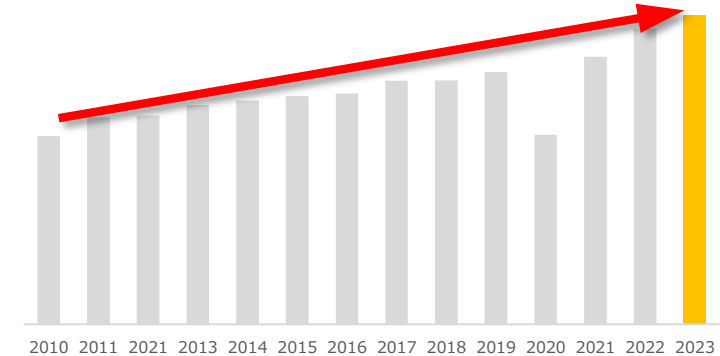
サッポロU.S.A. 現地通貨建て売上金額推移（連結消去前）
※サッポロブランドのみ

2020年は新型コロナウイルスの影響で減少



アメリカでのサッポロブランドの拡大状況
（販売数量ベース）

2010年比
1.6倍の成長





ベトナム：SAPPORO VIETNAM LTD.

概要

- ・日本のビールメーカーとして初めて、ベトナムにビール工場を建設し市場参入
- ・東南アジアにおける「サッポロブランド」の販売拡大のための橋頭堡

沿革

2010年 SAPPORO VIETNAM LTD.設立
2011年 ロンアン工場竣工

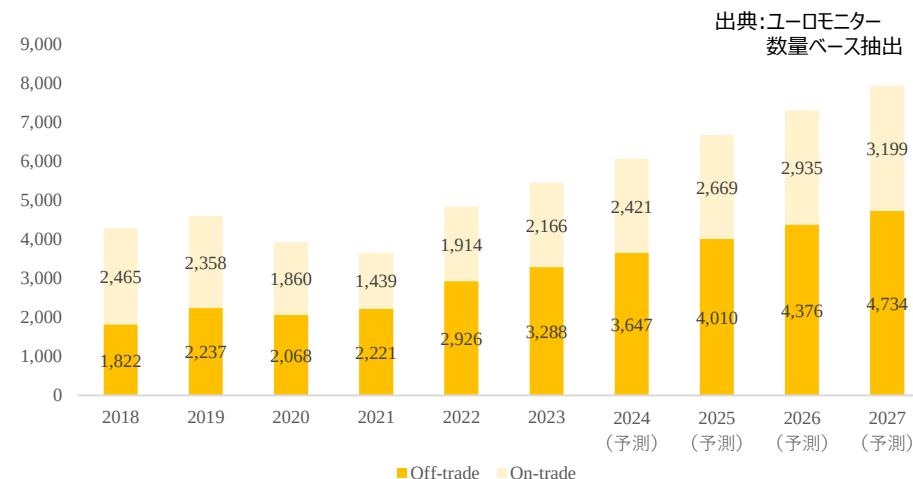
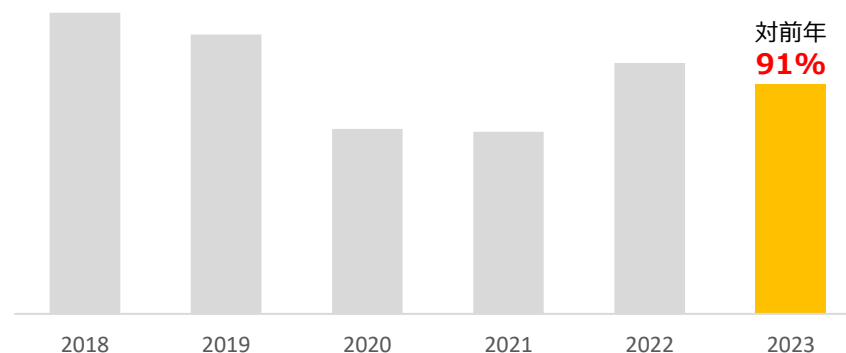
主要ブランド



生産拠点

生産能力 6万KL

ベトナム国内 ビールの市場規模 単位：千KL

サッポロベトナム
ベトナム国内 売上数量 前期比の推移

株式会社サッポロライオン

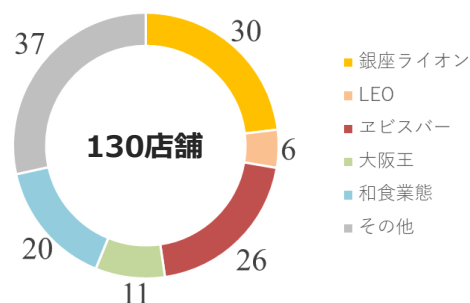
基本情報

1899（明治32）年、東京銀座にわが国初のビヤホールを開店して以来、外食産業のパイオニアとして各種飲食店を経営。おいしい生ビールの提供とともに、「安全・安心、本物志向」をテーマにしたメニュー開発を推進しています。ブランド発信拠点としての国内酒類事業との連携強化を図ります。

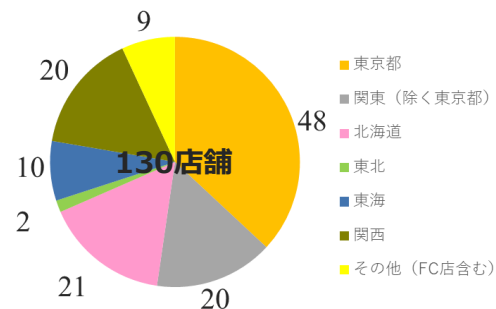
事業内容

ビヤホール、レストランの運営
 ビヤホール「銀座ライオン」、ビヤバー「YEBISU BAR」を中心に
 小型ビヤホール「銀座ライオンLEO」、和食業態など複数の業
 態・ブランドにて店舗展開

店舗数業態構成比



店舗数地域別構成比



※2023年12月末現在

沿革

1899年8月4日

日本初のビヤホール「恵比寿ビール BEER HALL」東京・銀座に誕生（サッポロライオン社の創業）

1949年9月

日本共栄株式会社設立（サッポロライオン社の創立）

主要ブランド

★ビヤホールライオン 銀座七丁目店



1934年開店、現存する日本最古のビヤホール。
 この1階のビヤホールは開業以来、変わらぬ佇まいのまま、現在に至ります。
**当ビヤホールがある「銀座ライオンビル」は、2022年2月17日付で、
 国の登録有形文化財（建造物）として登録されました。**

★エビスバー



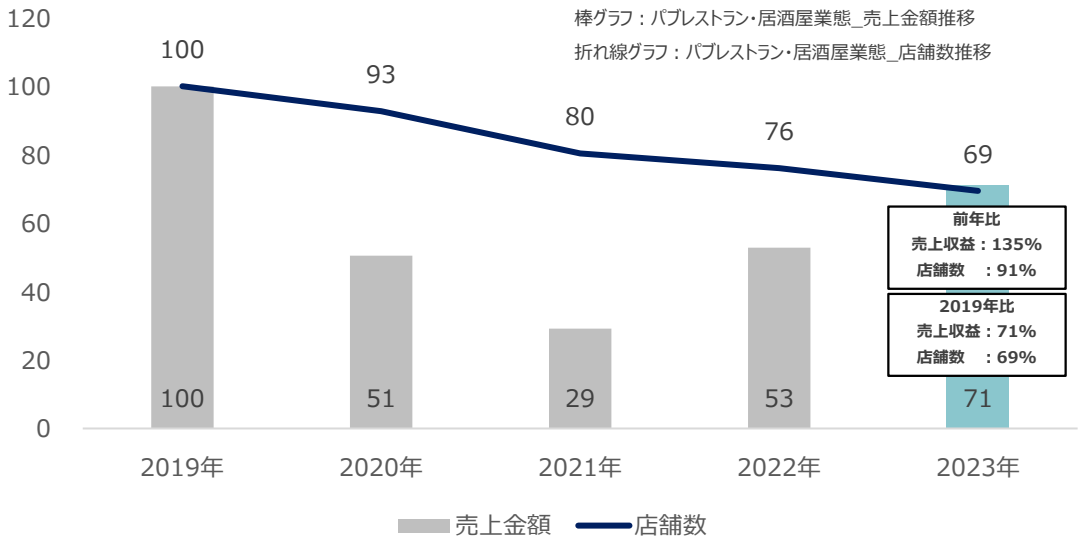
“ALL FOR YEBISU－エビスの全てが、ここにある。”がコンセプトの
 エビスの魅力を味わっていただくためのビヤバーです。



外食_市場動向

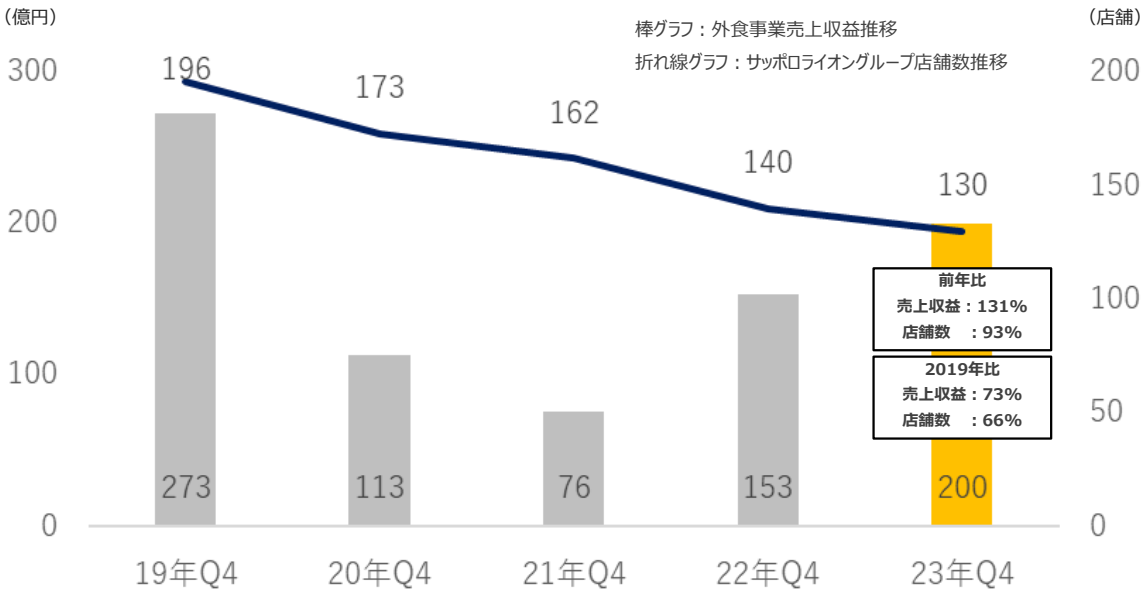
外食産業動向（2019年を100とした場合の増減）

外食産業市場データの出典：日本フードサービス協会



外食_当社実績

売上収益と店舗数の推移



パブレストラン・居酒屋業態全店ベース売上実績（前年比）

（前年比）	2023年1月	2023年2月	2023年3月	2023年4月	2023年5月	2023年6月	2023年7月	2023年8月	2023年9月	2023年10月	2023年11月	2023年12月
売上高	159%	284%	189%	132%	123%	115%	130%	150%	130%	112%	111%	118%
客数	142%	227%	166%	120%	113%	107%	120%	135%	119%	107%	105%	110%
客単価	112%	125%	114%	110%	108%	108%	108%	111%	109%	105%	106%	107%

サッポロライオン社既存店売上実績（前年比）

（前年比）	2023年1月	2023年2月	2023年3月	2023年4月	2023年5月	2023年6月	2023年7月	2023年8月	2023年9月	2023年10月	2023年11月	2023年12月
売上高	178%	250%	188%	147%	134%	125%	146%	165%	142%	121%	121%	122%
客数	155%	205%	161%	132%	121%	116%	134%	146%	130%	114%	115%	115%
客単価	115%	122%	117%	111%	111%	108%	109%	113%	109%	106%	105%	106%

色塗り箇所はパブレストラン・居酒屋業態全店ベース売上実績を上回る

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

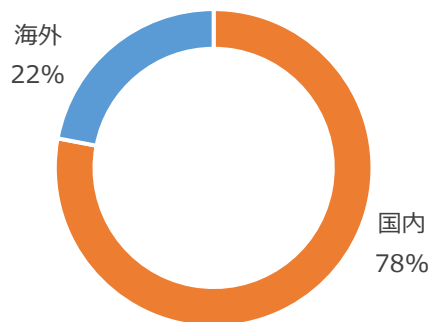
基本情報

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、サッポログループの食品・飲料事業を担い、食品や飲料に関わるビジネスを国内外で広く展開しています。国内ではレモンを中心に、飲料、スープなど、素材を活かしたユニークな商品を開発し、事業を展開しております。

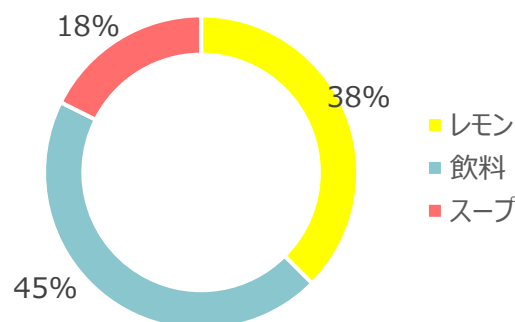
事業内容

飲料水及び食品の製造販売他

★ポッカサッポロフード&ビバレッジ
食品・飲料事業売上収益の構成比



★ポッカサッポロフード&ビバレッジ
主要3カテゴリ売上金額構成比（国内）



主要ブランド



沿革

- 1957年1月 日本麦酒株式会社が国際飲料株式会社を設立
＜旧サッポロ飲料の創業＞
- 1957年2月 レモン飲料の製造販売を目的としてニッカレモン株式会社を設立
＜旧ポッカコーポレーションの創業＞
- 2013年1月 ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社として事業開始

生産拠点

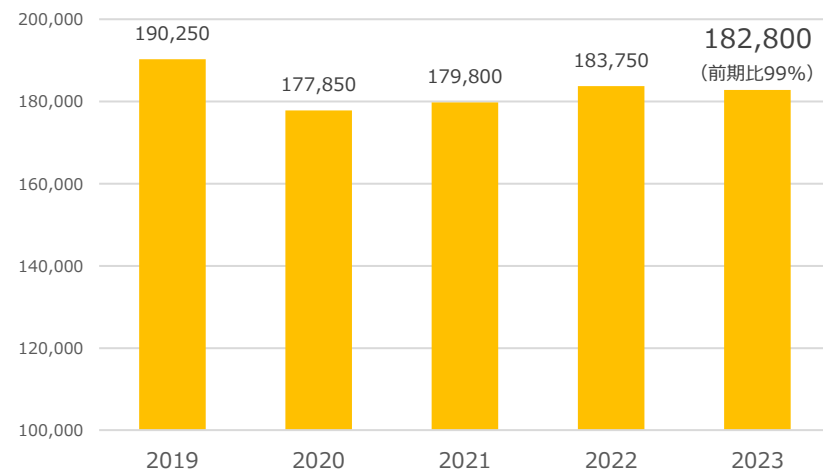
食品・飲料工場（名古屋、群馬、仙台）
食品製造関係会社（磐田）



飲料_市場動向

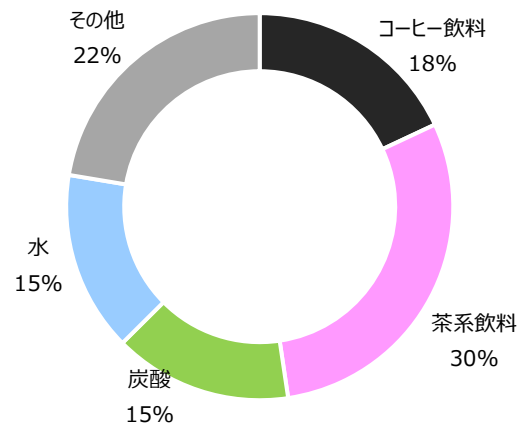
★日本国内 飲料市場の規模 単位:万ケース 2023年

出典:飲料総研『飲料ビジネス3月号』数量ベースで抽出



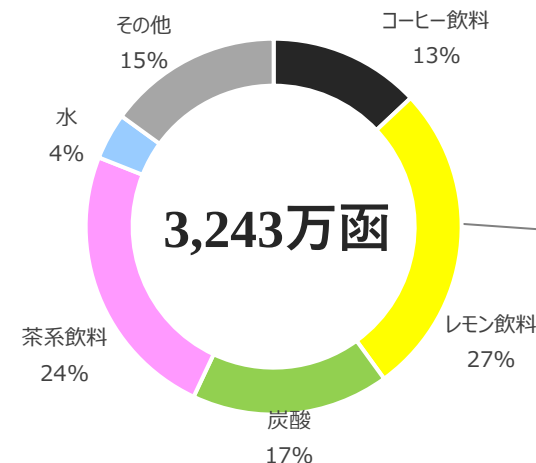
★日本国内 飲料市場カテゴリ別構成比 2023年

出典:飲料総研『飲料ビジネス3月号』数量ベースで抽出

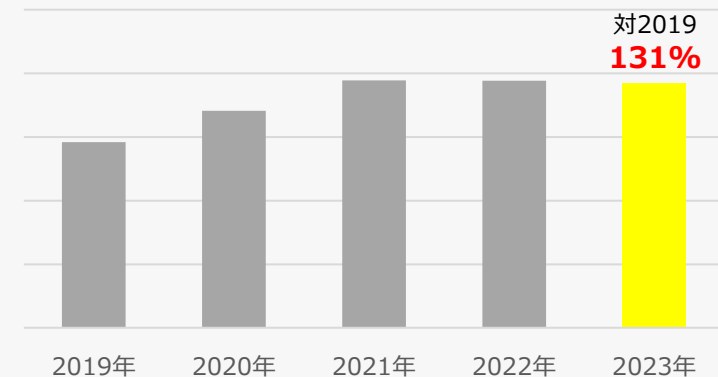


飲料_当社実績

★国内：ポッカサッポロフード&ビバレッジ 国内飲料ジャンル別販売数量 構成比



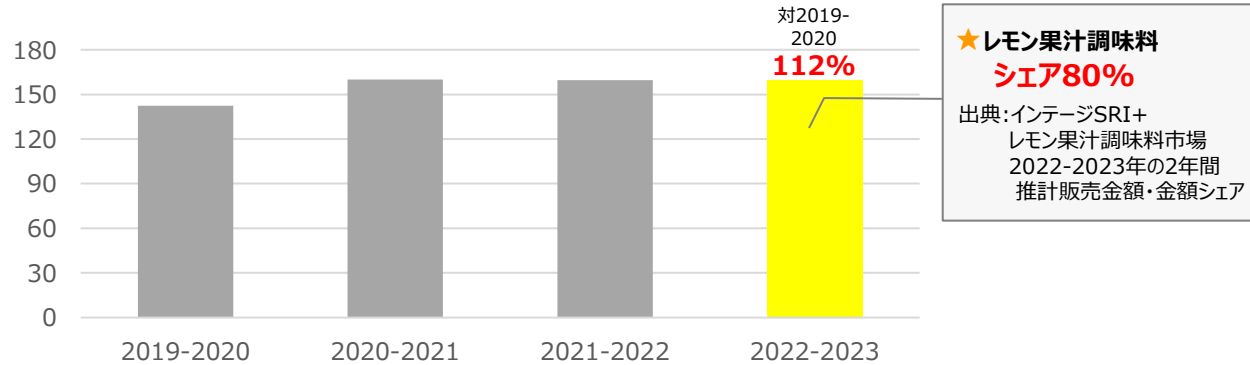
★レモン飲料売上金額推移 ※2019年を100とした場合の伸長率



レモン食品_市場動向

★レモン果汁調味料 市場規模推移（億円）

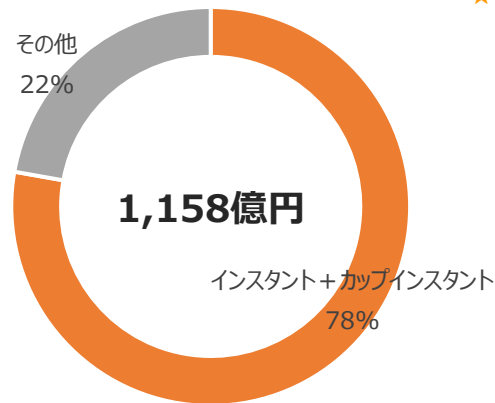
おいしさに加えて、機能性が評価されていることでレモン市場は拡大が続く見込み



スープ_市場動向

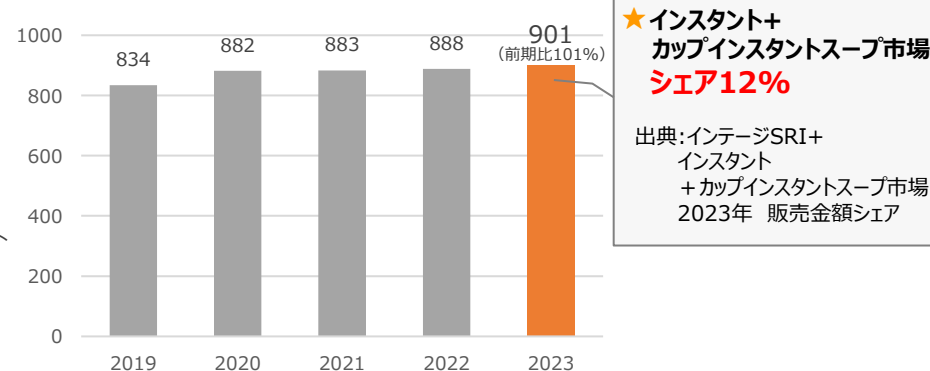
★日本国内 スープ市場カテゴリー別構成比

出典: インテージSRI+ スープ市場 2023年 販売金額



★日本国内 インスタント+カップインスタントスープ市場（億円）

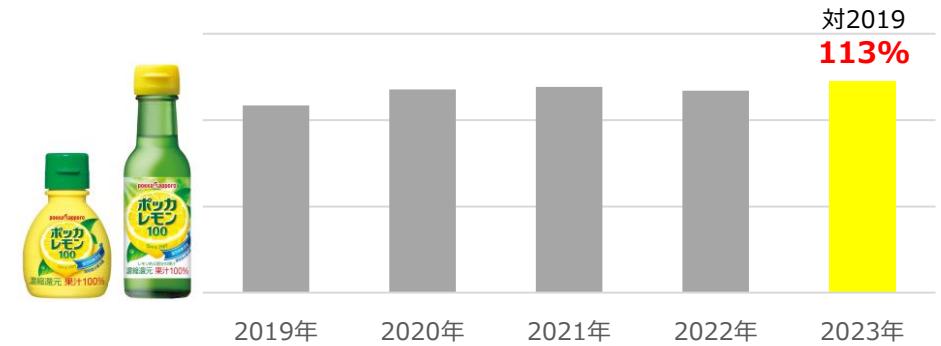
出典: インテージSRI+ インスタント、カップインスタントスープ市場 2019-2023年 販売金額



レモン食品_当社実績

★レモン食品売上金額推移 ※2019年を100とした場合の伸長率

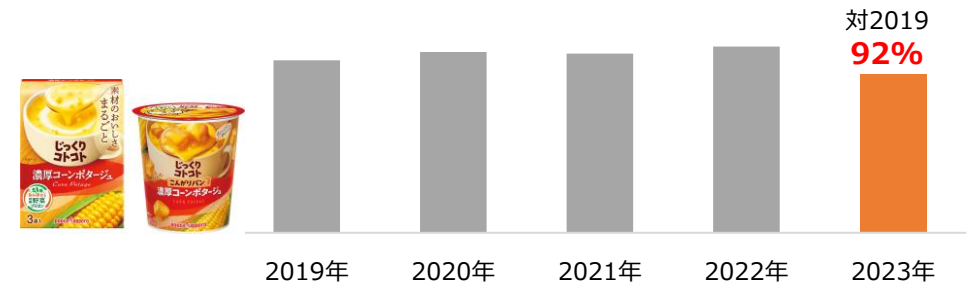
レモンNo.1メーカーとしてレモン需要の拡大に注力



スープ_当社実績

★スープ売上金額推移 ※2019年を100とした場合の伸長率

多様化する食生活やお客様のニーズにあわせた商品を展開





シンガポール：POKKA PTE. LTD.



マレーシア：POKKA (MALAYSIA) Sdn. Bhd.

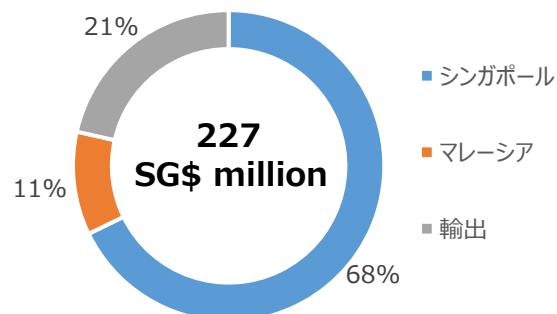
基本情報

1977年、日本の飲料メーカーに先駆けて、海外生産拠点ポッカコーポレーション・シンガポールを設立。シンガポール国内ではジャスミングリーンティーを中心に、茶系飲料で圧倒的なシェアを誇り、果汁飲料、コーヒー飲料でもPOKKAブランドの存在感は増しています。
また、シンガポールから東南アジア、中東など世界60ヶ国以上にPOKKAブランドの飲料を輸出しており、更なる成長を目指しています。

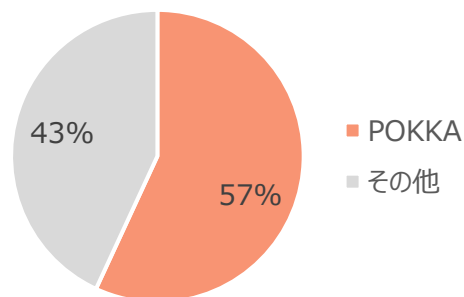


事業内容

清涼飲料水の製造、販売



シンガポール 茶系飲料シェア



マーケットシェアは、NielsenIQ によって報告されたデータに基づく当社推計
(Copyright © 2023, NielsenIQ)

沿革

1977年1月 POKKA PTE. LTD.設立

2014年8月 POKKA (MALAYSIA) Sdn. Bhd.設立

主要ブランド



サッポロ不動産開発株式会社

基本情報

「恵比寿ガーデンプレイス」と「サッポロファクトリー」「サッポロガーデンパーク」を中心とした不動産事業を行っています。1988年に設立されて以来、グループとゆかりの深い恵比寿・札幌を中心に事業を展開してきました。今後は魅力的な「まちづくり」に取り組むとともに、これまで培ってきたノウハウを最大限活かし、保有物件の価値向上を推進します。

事業内容

不動産の賃貸管理、不動産開発、ホテル運営等

(億円)	事業利益の内訳			EBITDAの内訳		
	2022	2023	増減	2022	2023	増減
YGP関連	49	47	▲ 2	82	85	3
賃貸運営	20	20	▲ 0	27	27	▲ 1
札幌	7	5	▲ 2	13	10	▲ 3
エクイティ他	▲ 11	▲ 13	▲ 2	▲ 7	▲ 9	▲ 1
合計	65	58	▲ 7	115	113	▲ 2

沿革

1988年 設立
 1993年 サッポロファクトリー開業
 1994年 恵比寿ガーデンプレイス開業
 2005年 サッポロガーデンパーク開業
 2016年 G I N Z A P L A C E 開業

主な保有不動産

保有不動産の詳細はサッポロ不動産開発（株）のHPに記載しております
<https://www.sapporo-re.jp/business/>

恵比寿ガーデンプレイス (サッポロビール恵比寿工場跡地を再開発)



所在地 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番
 敷地面積 東京都目黒区三田1丁目4番、13番
 約83,000㎡ (25,200坪)
 うち当社所有部分 56,943㎡
 約32,000㎡ (9,700坪)
 約478,000㎡ (144,600坪)
 うち当社所有部分 298,007㎡
 地下5階 地上40階建
 1994年10月
 オフィス棟規模
 開業

サッポロガーデンパーク (サッポロビール札幌工場（第2製造所）跡地を再開発)



所在地 北海道札幌市東区北7条東9丁目
 商業施設面積 約123,121㎡
 延床面積 約119,731㎡
 開業 2005年

サッポロファクトリー (サッポロビール札幌工場（第1製造所）跡地を再開発)



所在地 北海道札幌市中央区北2条東4丁目
 敷地面積 約47,000㎡ (14,300坪)
 建築面積 約32,400㎡ (9,800坪)
 延床面積 約160,000㎡ (48,400坪)
 開業 1993年4月

GINZA PLACE (銀座ライオン発祥の地を再開発)

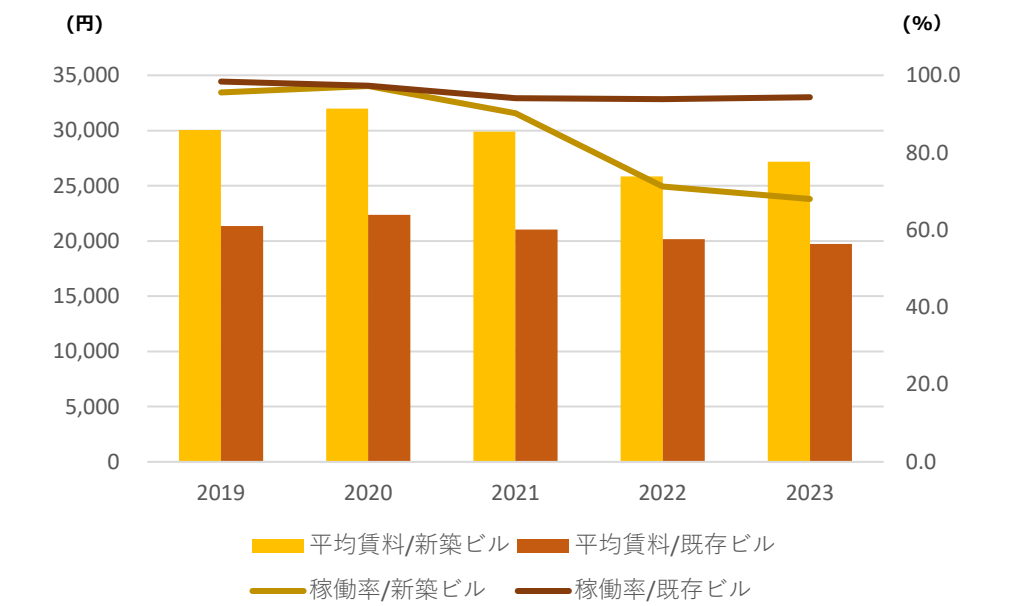


所在地 東京都中央区銀座5-8-1
 敷地面積 約645㎡
 延床面積 約7,350㎡
 規模 地下2階、地上11階建
 開業 2016年9月



不動産_市場動向

東京ビジネス地区オフィス年間平均稼働率・賃料推移 出典：三鬼商事



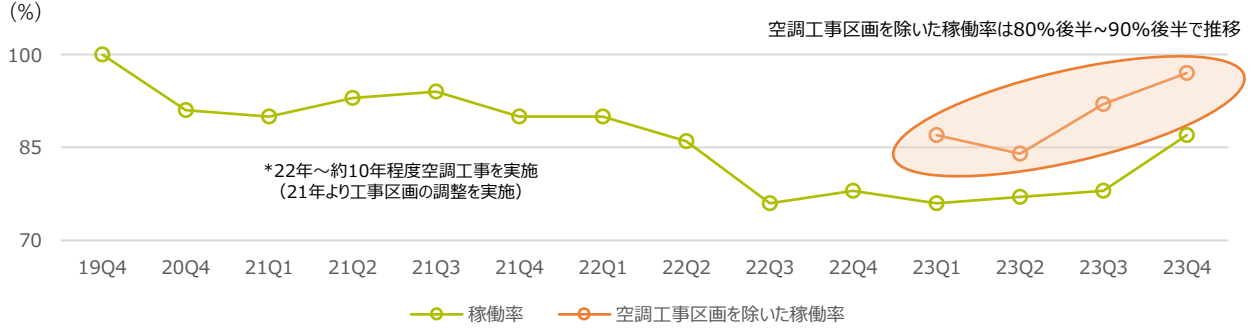
	2019	2020	2021	2022	2023
平均賃料/平均 (円/坪)	21,585	22,613	21,150	20,261	19,849
平均賃料/新築ビル	30,039	31,985	29,909	25,841	27,172
平均賃料/既存ビル	21,341	22,381	21,031	20,168	19,727
稼働率/平均(%)	98.3	97.4	94.1	93.6	93.8
稼働率/新築ビル	95.6	97.3	90.2	71.2	68.0
稼働率/既存ビル	98.4	97.4	94.1	93.8	94.3

不動産_当社実績

当社主要賃貸不動産物件別年間平均稼働率

	2019	2020	2021	2022	2023
恵比寿ガーデンプレイス (%)	99	98	92	83	79
GINZA PLACE (旧銀座ビル) (%)	99	99	94	97	93
ストラータ銀座 (%)	100	100	100	100	100

恵比寿ガーデンプレイス稼働率推移



当社賃貸等不動産期末時価推移 単位 百万円

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	期末	期末	期末	期末	期末
貸借対照表計上額	219,589	218,574	203,224	209,628	211,164
当期末時価	402,111	408,141	382,928	385,682	382,970

～データ編_財務データ～

損益計算書

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12
売上収益(百万円)	493,908	491,896	434,723	437,159	478,422	518,632
売上収益（酒税抜き）(百万円)	370,796	371,100	328,583	331,191	364,240	400,770
売上原価(百万円)	335,631	336,682	302,593	303,380	339,180	361,793
販管費及び一般管理費(百万円)	143,118	143,490	127,869	125,637	129,931	141,206
事業利益(百万円)	15,159	11,723	4,261	8,142	9,312	15,633
営業利益(百万円)	11,588	12,208	▲15,938	22,029	10,106	11,820
E B I T D A(百万円)	39,751	35,971	27,351	28,639	29,879	36,029
親会社の所有者に帰属する当期純利益(百万円)	8,521	4,356	▲16,071	12,331	5,450	8,724
海外売上収益比率（酒税込み）(%)	15.0	14.5	15.1	17.0	21.4	23.1
売上収益総利益率(%)	32.0	31.6	30.4	30.6	29.1	30.2
売上収益販管費率(%)	29.0	29.2	29.4	28.7	27.2	27.2
売上収益事業利益率(%)	3.1	2.4	1.0	1.9	1.9	3.0

財政状態計算書

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12
資産合計(百万円)	639,692	638,722	616,349	594,551	639,118	663,573
資本合計(百万円)	164,735	174,524	149,551	163,327	167,201	183,248
流動資産(百万円)	153,544	155,765	160,829	167,806	179,431	176,353
非流動資産(百万円)	486,148	482,957	455,520	426,745	459,687	487,220
流動負債(百万円)	214,591	210,472	216,243	210,535	219,515	191,204
非流動負債(百万円)	260,367	253,725	250,555	220,688	252,402	289,121
ネット金融負債残高(百万円)	218,358	212,126	221,534	180,730	226,513	205,399
親会社所有者帰属持分比率(%)	25.2	27.3	24.3	27.3	26.0	27.5
E B I T D A有利子負債倍率(倍)	5.5	5.9	8.1	6.3	7.6	5.7
D/ELシオ(倍)	1.4	1.2	1.5	1.1	1.4	1.1

セグメント情報

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12
酒類事業売上収益(百万円)	330,009	330,178	285,427	289,678	334,644	376,862
国内酒類事業売上収益(百万円)	252,108	254,656	227,943	228,621	245,387	268,302
海外酒類事業売上収益 (百万円)	50,332	48,257	46,203	53,439	73,950	88,593
外食事業売上収益(百万円)	27,569	27,265	11,281	7,617	15,307	19,967
食品飲料事業売上収益(百万円)	133,384	136,876	125,861	125,453	122,914	119,922
国内食品飲料事業売上収益(百万円)	-	-	-	-	98,330	93,484
海外飲料事業売上収益(百万円)	-	-	-	-	24,584	26,437
不動産事業売上収益(百万円)	24,483	24,690	23,262	21,863	20,724	21,702
その他事業売上収益(百万円)	6,033	152	172	166	140	146
酒類事業 事業利益(百万円)	8,952	8,520	2,368	5,441	7,730	16,016
国内酒類事業 事業利益(百万円)	7,166	8,003	6,660	7,916	8,471	14,185
海外酒類事業 事業利益(百万円)	1,473	199	467	1,727	▲261	▲301
外食事業 事業利益(百万円)	381	388	▲5,022	▲4,238	▲513	2,105
食品飲料事業 事業利益(百万円)	1,409	▲470	▲2,621	712	1,767	1,634
国内食品飲料事業 事業利益(百万円)	-	-	-	-	789	2,164
海外飲料事業 事業利益(百万円)	-	-	-	-	882	▲573
不動産事業 事業利益(百万円)	11,136	10,737	10,853	8,226	6,459	5,784
その他・全社 事業利益(百万円)	▲6,338	▲7,064	▲6,339	▲6,237	▲6,644	▲7,801
酒類事業 事業利益率(%)	2.7	2.7	0.8	1.9	2.3	4.2
国内酒類事業 事業利益率(%)	2.8	3.3	3.1	3.5	3.5	5.3
海外酒類事業 事業利益率(%)	2.9	0.4	0.7	3.2	▲0.4	▲0.3
外食事業 事業利益率(%)	1.4	1.4	▲44.5	▲55.6	▲3.3	10.5
食品飲料事業 事業利益率(%)	1.1	▲0.3	▲2.1	0.6	1.4	1.4
国内食品飲料事業 事業利益率(%)	-	-	-	-	0.8	2.3
海外飲料事業 事業利益率(%)	-	-	-	-	3.6	▲2.2
不動産事業 事業利益率(%)	45.5	43.5	46.7	37.6	31.2	26.7
その他事業 事業利益率(%)	—	—	—	—	—	—

※カントリーピュアフーズ社・シルバースプリングスシトラス社（北米飲料事業）
：2018年～2019年12月→食品飲料事業に分類（2019/12売却済み）
※2020年度より、「その他事業」に区分していた物流事業を、「酒類事業」に区分へ変更。
※2021年度より、「日本・アジア酒類事業」に区分していたベトナム事業、欧州事業等の海外事業、及び「北米酒類事業」について、「海外酒類事業」に区分を変更。
また、同区分変更に伴い、「日本・アジア酒類事業」を「国内酒類事業」に名称変更。
前期比較については、前年数値を変更後セグメント区分に組み替えた数値で比較。
（＝～2019年まで「日本・アジア酒類事業」、「北米酒類事業」
2020年～「国内酒類事業」、「海外酒類事業」）



キャッシュフロー情報

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12
営業活動 C F (百万円)	30,830	36,069	16,466	30,308	7,814	45,446
投資活動 C F (百万円)	▲18,727	▲24,930	▲16,000	20,729	▲46,137	▲16,439
財務活動 C F (百万円)	▲14,521	▲5,984	4,138	▲53,080	36,465	▲27,140
フリー C F (百万円)	12,103	11,140	466	51,037	▲38,323	29,007
現金・同等物期末残高(百万円)	9,989	15,215	19,734	17,368	15,380	17,204
設備投資額(百万円)	23,036	29,912	16,109	21,241	22,326	28,923
減価償却費(百万円)	24,591	24,248	23,089	20,496	20,567	20,395
のれん償却額(百万円)	-	-	-	-	-	-

1株あたり情報

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12
基本的1株当たり当期利益(円)	109.40	55.92	▲206.31	158.30	69.96	111.99
1株当たり配当金(円)	42	42	42	42	42	47
1株当たり親会社所有者帰属持分(円)	2,073.54	2,234.65	1,922.80	2,086.96	2,134.98	2,340.41
配当性向(%)	38.4	75.1	-	26.5	60.0	42.0
株価（各年12月末）(円)	2,293	2,579	1,991	2,183	3,280	6,218

各種指標

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12
ROA：資産合計事業利益率(%)	2.3	1.8	0.7	1.4	1.5	2.4
ROE：親会社所有者帰属持分当期利益率(%)	5.1	2.6	▲9.9	7.9	3.3	5.0
総資産回転率：資産合計回転率(回)	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7	0.8

～データ編_非財務データ～

区分	重点課題	具体的取り組み	目標設定 会社	目標年	目標	単 位	実績推移						目標	
							2018	2019	2020	2021	2022	2023	2026	2030
環境と の調和	脱炭素社会の 実現	自社拠点・サプライチェーンにおける 温室効果ガス排出削減	サッポログループ (全事業会社共通)	2030年	・スコープ1,2 温室効果ガス排出量を2022年比で42%削減	千t	236.1	206.9	180.5	184.1	189.3	175.0	149.5	109.8
			サッポログループ (SB,PS,SBL)		・スコープ3 温室効果ガス排出量を2022年比で25%削減	千t		1,034	966.0	903.3	1,138.1	1,104.6	995.8	853.6
					・FLAGスコープ1,3 温室効果ガス排出量を2022年比で31%削減	千t	－	－	－	－	71.6	64.7	60.5	49.4
人財の 活躍	多様な人財の 活躍	ダイバーシティ・エクイティ&インクルー ジョン(DE&I)の推進	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026 年	・ワークエンゲージメント 54以上		－	－	53.3	53.9	53.6	54.0	54以上	－
			SH,SB,PS,SRE,SLN	2026 年	・女性取締役比率12%以上	SH+4事業会社 取締役 %				8.3	7.9	12	20	
			SH	2030 年	・女性取締役比率30%以上	SH取締役 %				9.1	－	30		
			SH,SB,PS,SRE,SLN	2026 年	・女性管理職比率12%以上	SH+4事業会社 管理職 %	3.0	4.0	4.1	4.2	5.4	6.7	12	20
				2030 年	・女性管理職比率20%以上									
		成長と生産性向上に向けた人的資本投資	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026 年	・統合調査「未来価値創造に向けた挑戦」 3.0以上 ※ストレスチェック・従業員意識調査によるサッポログループ独自の調査指標 ＜1.0～4.0で数値化＞		－	－	2.5	2.6	2.7	2.7	3.0以上	－
			SH,SB,PS,SRE,SLN	2026 年	・プレゼンティーズム損失率 33.4%以下	%	－	－	36.5	36.3	34.4	33.8	33.4以下	－

潤いを創造し 豊かさに貢献する



本資料は、投資判断の参考となる情報提供のために作成されたものであり、投資勧誘又はそれに類する行為を目的としたものではありません。
また、本資料に記載された業績予測ならびに将来予測は、資料作成時点での弊社の判断であり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。
従って、将来実際に公表される業績等は、本資料に記載されている内容とは大きく異なる結果となる可能性があります。
弊社は、本資料の情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありませんので、ご了承ください。